

私は、現在と戦時中は、いろいろなことが違ったと思います。戦時中は、おいしいものや欲しいものが全く手に入らなかったと思います。それに比べて、現在は建物がたくさん建ち、おいしい食べ物が簡単に手に入ったり、欲しいものもすぐ買うことができます。とても幸せな毎日です。私は、慰霊の日によく戦争のテレビを見ます。私は、そのテレビを見てたくさん鼻水が出るほど泣いてしまいます。戦時中は、苦しんでいる人がたくさんいたからです。

私は、そんな戦争についてくわしく調べてみました。一九四一年に太平洋戦争が始まり、私たちが住むこの沖縄県でも戦いが起こったのです。その時から人々は苦しい毎日を送ってきました。お家も焼けて、町は火の海で、亡くなった人々は何百万人と言われています。戦時中に食べられたものは、干し芋や豆ぐらいだったそうです。

男性は、高校生になると赤紙が届き、戦場に行かなくてはなりません。兵隊は、お国のために遠い戦地に行つて、戦うので無事にお家に帰つてこられることはなかなかありません。多くの人が、戦地で亡くなってしまったそうです。反対に女性は、けが人の手当をしないとイケません。でもそんな女性の仕事も簡単ではありません。仕事に行く途中に、爆弾にあたつて、亡くなった人が多くいたそうです。子どもは、自分の兄弟を守る仕事があります。

また、戦時中は暗い防空壕の中で隠れて生活をしなければなりません。そんな時に、赤ちゃんが泣いてしまうと、泣き声が外に聞こえてしまつて隠れていることが敵にばれてしまいます。そうならないために、日本兵が、赤ちゃんを殺してしまうということもあつたそうです。とてもこわくて、かわいそうなことだと思います。

それだけでなく、戦時中は、靴をはかずに歩くことが普通でした。今、私たちは靴をはいています。とても幸せなことです。靴をはかなければ、石などにあたつてけがをしてしまうからです。

太平洋戦争は、日本から始めた争いです。豊かな町でも、少しでも爆弾を落としたり命取りになつてしまいます。町や人が焼けて何もかもなくなつてしまいました。

沖縄県以外でも広島県や長崎県など日本の各地でたくさんの方が苦しみました。日本だけではなくて、日本と戦つた相手の国にもたくさんの方が悲しみ、苦しんだと思います。

私のおばあちゃんは、子どもの時、戦争でひどい目にあつたそうです。けれど私のおばあちゃんは今も生きています。私は、おばあちゃんが生きていることが、とてもうれしく思います。もし、おばあちゃんが戦時中に亡くなつてしまつていたら、おばあちゃんの顔を一生見ることができません。きなことになります。それは、とても寂しいことです。私のおじいちゃんは、一人とも亡くなつていません。一人のおじいちゃんは、戦時中に赤紙が渡され、お国のために戦いに行った時に亡くなつてしまったそうです。きっとおじいちゃんたちは、天国で会つていると思います。

私は、こんな悲しいことだらけの戦争は、悪いことだと思います。今の私の生活は、好きなことだけではなく苦手なことたくさんあります。しかし、戦時中と比べたら、今の生活をすごく誇りに思います。

六月二十三日の慰霊の日は、戦争で亡くなったたくさんの方のことを思つて祈りを捧げる日です。私は、毎年慰霊の日になると、戦争で亡くなった人のことを考えて、泣いてしまいます。も

う二度と戦争をおこしてはいけません。

私は、ときどきこう思います。今の時代は平和だけど、未来はどうなっているのだろうか。現在の私たちの未来は、私たちで変えることができます。未来をもっと明るいものにすれば、世界中の国が平和になります。そうすれば、国同士が仲良くなり、もっと人生が楽しくなると思います。

これからも平和な毎日が続くために、今、私ができることは、「助け合い、支え合う」ことです。何か困っている人がいれば、助けてあげたいと思います。そんな優しさを世界中の人が持てば、人と人が殺し合う戦争なんて決して起こらないと思います。私は、世界中の人が、お互いを支え合いながら、生きていくことができる世界になってほしいと願います。